

2 健全育成活動の実施状況等

各地域で取り組まれている青少年を対象とする健全育成活動について、実施状況、内容、運営形態などの調査項目の結果をまとめておきたい。まず、表4-2-1は、過去1年間の社会参加活動の参加回数についてその平均値を示したもので、全体の平均値は9.7回となっている。地域の非行発生別でみると、多非行群5.5回、中非行群9.6回に対して、少非行群では14.0回となっており、自己報告非行の少ない地域ほど、職員が青少年対象の社会参加活動に数多く参加している。

ではより具体的に、11種類の青少年対象の社会参加活動を取りあげ、個々の活動にどの程度参加したかを尋ねた結果が表4-2-2で「1～2回ある」あるいは「何回もある」と答えた者の割合が示してある。全体で見ると参加経験者の多い活動をあげると、「交通事故・火事・犯罪などにあわないように注意を呼びかける活動」と「夏祭り・盆踊り・子ども祭りなどの行事」が6割強、「運動会やマラソン大会などのスポーツの大会」が

表4-2-1 過去一年間の社会参加活動に対する参加回数

	多非行	中非行	少非行	全体
平均値	5.5	9.6	14.0	9.7

表4-2-2 過去一年間の社会参加活動に対する参加経験

		(%)			
		多非行	中非行	少非行	全体
イ)柔道・剣道の練習	1～2回ある	18.6	21.3	17.5	19.6
	何回もある	14.0	6.3	5.0	8.0
ロ)野球・サッカー・水泳・バレーボールなどの練習	1～2回ある	12.2	20.0	15.4	16.9
	何回もある	4.9	12.5	12.8	10.6
ハ)運動会やマラソン大会などのスポーツ行事	1～2回ある	54.5	32.1	50.0	42.5
	何回もある	4.5	11.1	7.1	8.4
ニ)夏祭り・盆おどり、子どもまつりなどの行事	1～2回ある	42.2	54.8	42.2	48.3
	何回もある	20.0	10.7	15.6	14.4
ホ)登山・ハイキング・キャンプなどの自然にふれる活動	1～2回ある	19.0	8.6	5.1	10.5
	何回もある	4.8	3.7	2.6	3.7
ヘ)田植え・いも掘りなどの体験活動	1～2回ある	4.8	1.3	-	1.9
	何回もある	-	-	-	-
ト)公園・道路のそうじ、花や木を植えるなど地域をきれいにする活動	1～2回ある	44.2	46.9	41.5	44.8
	何回もある	4.7	3.7	2.4	3.6
チ)民謡やおどりなどの芸能や文化を学んだり、郷土を知るための活動	1～2回ある	9.5	10.3	17.9	11.9
	何回もある	-	3.8	2.6	2.5
リ)竹馬・たこ・わらじ・人形などいろいろな作品を自分で作る活動	1～2回ある	9.8	11.3	5.1	9.4
	何回もある	-	-	-	-
ヌ)お年寄りの家庭や施設でのボランティア活動	1～2回ある	11.6	11.5	23.8	14.7
	何回もある	4.7	1.3	-	1.8
ル)交通事故・火事・犯罪などにあわないように注意を呼びかける活動	1～2回ある	25.0	34.1	47.6	35.0
	何回もある	31.8	35.2	19.0	30.5

約5割となっている。逆に、「田植え・芋ほりなどの体験活動」や「竹馬・たこ・わらじ・人形など色々な作品を自分で作る活動」といった生産体験活動などの参加経験者は1割未満で少ない。地域の非行発生別でみると、自己報告非行の多い地域ほど職員が参加している割合が高い活動として、「柔道・剣道の練習」と「登山・ハイキング・キャンプなどの自然にふれる活動」が挙げられ、多非行群と少非行群のポイント差が10以上となっている。逆に、概ね自己報告非行の少ない地域ほど参加者割合が高い活動としては、「民謡や踊りなどの芸能や文化を学んだり、郷土を知るための活動」「お年寄りの家庭や施設でのボランティア活動」「交通事故・火事・犯罪などにあわないように注意を呼びかける活動」が挙げられ、多非行群と少非行群のポイント差が8以上となっている。

社会参加活動の青少年参加者の中心層については、結果を表4-2-3に示した。全体の結果をみると、小学生が39%、中学生が56%となっており、高校生以上の年中・年長少年を主な対象とする活動がほとんど行われていないことがわかる。地域の非行発生別でみると、顕著な傾向ではないが、自己報告非行の多い地域ほど、小学生が中心であるという回答が多く、その分、中学生が中心であるという回答が少なくなっている（多非行群と少非行群のポイント差が7）。

次に、健全育成活動の中でも非行防止活動を、「街頭補導やパトロール」「環境浄化活動（風俗店の看板撤去・ピンクビラはがしなど）」「地域の非行問題に関する相談活動」の3つに分け、過去1年間の参加回数を尋ねた結果が表4-2-4で、平均値が示されている。全体の平均値をみると、「街頭補導やパトロール」が10.2回、「環境浄化活動」

表4-2-3 社会参加活動の青少年参加者の中心層

	多非行	中非行	少非行	全体
小学生	43.5	37.8	36.4	38.9
中学生	52.2	55.6	59.1	55.6
高校生	4.3	1.1	2.3	2.2
それ以外の青少年	-	5.6	2.3	3.3
合計	100.0	100.0	100.0	100.0

表4-2-4 過去一年間の非行防止活動の実施回数(平均)

	多非行	中非行	少非行	全体
イ)街頭補導・パトロール	10.1	9.7	11.1	10.2
ロ)環境浄化活動	2.5	2.1	2.0	2.2
ハ)地域の非行問題に関する相談活動	6.6	7.9	8.0	7.6

が2.2回、「地域の非行問題に関する相談活動」が7.6回となっている。地域の非行発生別にみると、「街頭補導やパトロール」と「地域の非行問題に関する相談活動」については、少非行群で最も参加回数が多くなっており、「環境浄化活動」では地域差がほとんどみられない。

さらに、地域で行われている健全育成活動として、子供会・自治会などの住民組織、青少年の参加者、ボランティアなどの成人参加者のそれぞれが主体となるものがどの程度行われているかを尋ねた結果は、表4-2-5と図4-2-5のとおりである。表4-2-5と図4-2-5では、3項目とも「少しある」と「多い」の合計%が示されている。全体で見ると、いずれの活動も8割以上の地域で実施されていることがわかる。地域の非行発生別でみると、自己報告非行の多い地域ほど、「活動に参加する子どもが主体となった活動」と「ボランティアなど、活動に参加する大人が主体となった活動」が実施されているところが少ないことが示されている(多非行群と少非行群のポイント差が7以上)。

表4-2-5 地域活動の主体

	多非行	中非行	少非行	全体
イ)子供会・自治会などの住民組織が主体となった活動	89.4	93.5	91.3	91.9
ロ)活動に参加する子どもが主体となった活動	78.3	81.7	89.1	82.7
ハ)ボランティアなど、活動に参加する大人が主体となった活動	86.7	91.4	93.5	90.8

